

第6講座 ■■■ 古文

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの間に答えなさい。

〔古文〕

これも今は昔、比叡の山に児ありけり。僧たち、宵のつれづれに、「いざ、かいもちひせん」と言ひけるを、この児、心よせに聞きけり。さりとて、しいださんを待ちて寝ざらんもわろかりなんと思ひて、かたがたに寄りて、寝たるよしにて、いでくるを待ちけるに、すでにしいだしたるさまにて、ひしめきあひたり。

この児、定めておどろかさんずらんと、待ちゐたるに、僧の、「もの申しあぶらはん。おどろかせたまへ」と言ふを、うれしと思へども、ただ一度にいらへんも、待ちけるかともぞ思ふとて、いまひと声呼ばれていらへんと、念じて寝たるほどに、「や、な起こしたてまつりそ。幼き人は寝入りたまひにけり」と言ふ声のしければ、あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、すべなくて、無期の後に、「えい」といらへたりければ、僧たち笑ふことかぎりなし。

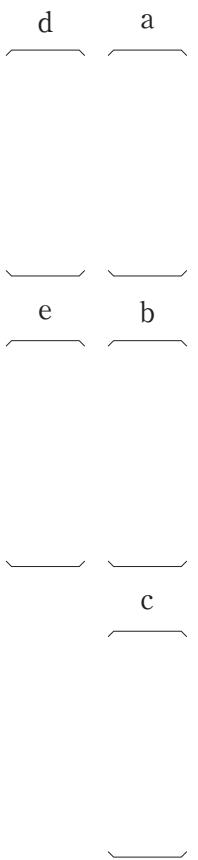
〔現代語訳〕

これも今は昔のこと、比叡山の寺に一人の児がいた。僧たちが、宵の暇にまかせて、「さあ、ぼたもちを作ろう」と言つたのを、この児は、心に期待して聞いていた。そうはいつても、できあがるのを待つて寝ないでいるのも具合が悪いだろうと思つて、(部屋の)片すみに寄つて、寝ているふりをして、できあがるのを待つていたところ、もうできあがつた様子で、ひしめき合つてさわいでいる。

この児は、きっと起こそうとするだろうと、待つていたところ、僧が、

「A」と言うのを、うれしいとは思つたが、たつた一度(呼ばれた)だけで返事をするのも、待つていたのかと思うかも知れないと思つて、もう一度呼ばれてから返事をしようとして、がまんをして寝ているふりをしているうちに、「B」。幼い人は寝入つておしまいになつた」と言う声がしたので、ああ、困つたと思つて、もう一度起こしてくれよ、と思いながら寝たふりをして聞いていると、むしやむしやと、しきりに食べる音がしたので、どうにもがまんができなくなつて、かなり時間がたつてから、「はい」と返事をしたので、僧たちはとめどもなく笑つた。

問一 ～～線 a～e の主語を古文中からそれぞれ書き抜きなさい。



問二 現代語訳のA・Bにあてはまる言葉として最も適当なもの

を次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| A ウ もしもし、目をさましてくださいませ | a 何か言って、おどろかせてください |
| ウ 寝てばかりいるのはけしからんことだ、きつくしかつてやろう | b おや、何か言つたようだ、大声を出しておどろかせてやろ |

練習問題

1 次の古文と現代語訳を読んで、あととの間に答へなさい。

〔古文〕

さて物語は、もののあはれを知るを、^①むねとはしたるに、そのすぢにいたりては、儒仏の教へにはそむける事もおほきぞかし。^aそはまづ人の情の、物に感ずる事には、善惡邪正^bさまざまある中に、ことわりにたがへる事には、感ずまじきわざなれども、情は、我ながらわが心にもまかせぬ^cことありて、おのづからしのびがたきふし有りて、感ずることあるものなり。

(本居宣長『源氏物語玉の小櫛』)

5

〔現代語訳〕

さて、物語というものは、もののあはれを知ることを、主要な事がらとはしているのであるが、そのあらすじということになると、儒教や仏教の教えに反することも多いものであるよ。そのわけはまず人間の心が、(何かの)物事に感じる場合には、善惡邪正いろいろある中で、道理に反することには、感動するはずはないわけであるが、心というものは、□ところがあつて、(どうかすると)自分でも抑えがたいものがあつて、(道理に反することにも)感動することがあるものだからである。

問一 線a～cをそれぞれ現代かなづかいに直して書きなさい。

 a b c

問二 線①「むね」とは何ですか。現代語訳中から六字で書き抜きなさい。

なさい。

問三 線②「すぢ」とは何ですか。現代語訳中から書き抜きなさい。

問四 線③「ぞかし」に込められている筆者的心情を述べたものと

して最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア それほど重要ではないことを読者に示そうとしている。

イ とても意外だということを読者に示そうとしている。

ウ どうすればよいかと読者に問い合わせている。

エ 特に強調して読者に示そうとしている。

問五 線④「我ながらわが心にもまかせぬ」の現代語訳が□にあてはまります。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 何でも自分の思いのままになる

イ 自分でも自分の思うとおりにいかない

ウ 自分の思うとおりになるはずがない

エ 自分の思うとおりになりそうな

問六 線⑤「道理」は、古文ではどう表されていますか。古文中から四字で書き抜きなさい。

問七 Aさんたちは、古文と現代語訳を読んで、次のような話し合いを行いました。これを読んで、あと(1)～(3)に答えなさい。

Aさん この古文は、物語において大切にされているのは □ I

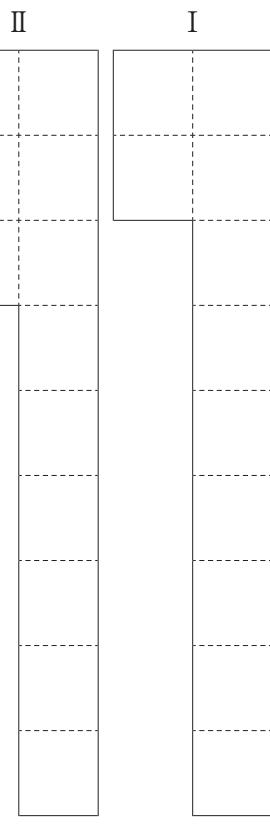
Bさん その後、物語の「すぢ」に、□ II 内容のものが多い理由を述べて、論を展開しているね。

Cさん 筆者は「ことわりにたがへる事」つまり □ III に感動するはずがないと述べているよ。でもその一方で、現代語訳を見ると、「心というものは、□ IV ところ」があるとも考えているようだよ。

Aさん 「おのづからしのびがたきふし有りて」とあるように、人には □ V があるということかなあ。

Bさん そうだね。古文の要旨をまとめると、筆者は □ VI と主張しているんだと思う。

(1) □ I ～ □ III にあてはまる言葉を、現代語訳中から、I は一字、II は二字、III は八字でそれぞれ書き抜きなさい。



(2) □ IV にあてはまる内容として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 理屈だけでは割り切れない、どうしようもない気持ち
イ つつみかくしておきたい自分だけの物語
ウ どんなことであっても、道理に反するものには感動しない理性

エ どんな気持ちであっても、理屈による説明を可能にする論理性

(3) □ V にあてはまる内容として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 人間には道理に反することを好む傾向があるので、そうした傾向を正すためにも、儒仏の教えにもとづいた物語を読まなければならない

イ 物語のあらすじが儒仏の教えに反することがないように、物語の作者は儒仏の教えについてふだんから学習しておくことが大切である

ウ 物語というものに儒仏の教えに反する面が多いのは、道理に反することだとわかっていても、人間の心は感動することがあるからである

エ 物語にふれて起こる感動を抑制するものが、人間の理性や意志というものであり、物語にもそれを主題にした作品が多く見受けられる